

移住者とのタウンミーティング（要約）

テーマ：移住された方の視点で松山市を考える

令和7年11月2日（日曜日）

【市長】 皆さん改めまして、おはようございます。今日は3連休の中日ということになります。いろいろとお忙しかったのではないかなと思いますが、タウンミーティングにご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。そして、何よりも、松山に移住をしていただいて本当にありがとうございます。今年松山に移住された方もこの中にはいらっしゃると伺っています。松山の生活には慣れたでしょうか。松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任させていただいた当初から開催しています。今私4期目なんです。松山市は旧松山市、旧北条市、旧中島町の三つの合併で41地区に分かれます。地区ごとにタウンミーティングをやっていきまして、市長就任の1期目の4年では41地区を2巡りさせていただきました。2期目に入ってからは、地域別41地区のタウンミーティングに加えて、世代別のタウンミーティングそして職業別のタウンミーティングというのをやっています。世代別で言いますと今までに子育て中の方々ですか、働き盛りの方々ですか、また人生の先輩方のシルバー世代の方々に集まつていただいてのタウンミーティング、またこれから松山を担う大学生、専門学校生とのタウンミーティングですとか、高校生のタウンミーティング、中学生のタウンミーティングなどもやっています。また、職業別のタウンミーティングでいいますと、農業をやっている方とのタウンミーティングですとか、商店街の方々とのタウンミーティング、また、コロナで経済が大変影響を受けたときには、金融機関の方々、経済の実態をよく知つてますから、金融機関の方々に集まつていただいてのタウンミーティングなどをしています。今回のタウンミーティングで146回目になります。3期目からは、これまでタウンミーティングに参加された皆さんから、松山市の取り組みを知ることができよかったです、そういう声を多くいただきましたので、意見交換の合間に広報タイムというのをとらせていただいて、現地・現場で業務に携わっている松山市の職員から、市民生活に役立つ情報を紹介しています。今日は大事です。「家具転倒防止対策の必要性」、また「食品ロスを減らしましょう」の二つを予定しています。いただいたご意見にはできるだけこの場でお答えをして帰ります。中には、松山市だけじゃなくて、国と関係をする案件、愛媛県と関係をする案件、そういうものはいい加減な返事をして帰るわけにはまいりません。また、財政的によく考えなければいけないもの、そういうものを一旦持ち帰させていただいて、1カ月をめどに必ず皆さんにお返事をするという、聞きっぱなしにしない。そして、やりっぱなしにしないタウンミーティングが松山市のタウンミーティングの特徴でございます。今日は皆さんと有意義な意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【質問者】 私は2010年まで愛媛大学の大学院に行って、そこから全国をいろいろ回ったんですけど最終、昨年に愛媛に戻ってきました。当時は学生だったので気付かなかつたことで、子育て世帯になって気付いたことっていうのがあるんです。当時、車とかを乗つてなかつたので全然気付かなくて、むしろ原付側だったのであまり気にしてなかつたんですけど、松山って街中の方とかは原付に乗る学生や、あとは自転車で移動する学生が多くて、ちょっと道路の幅というか、自分が車で運転するようになったときに、都市部とかと比べると、幅が狭くて運転も得意な方じゃないので、ちょっと危ないなと思うシーンとかがありまして、これがちょっと移住と関係するか分かんないんですけど、そういう道路に対する取組だったりとか、3車線のところとかも少ないのかなとは思つて、渋滞が結構街中に出る辺りだったりとか、街から帰る5時ぐらいの時間帯とかは渋滞化してるなっていうのを感じたんですけど、それに対する取組を教えていただけたら嬉しいです。

【都市・交通計画課 副部長】 道路についての取組なんですけれども確かに朝夕渋滞などもあります。人口増と交通量増がずっと続いてきた時代から、人口減で道路の車の量も減ってきた時代で、時代に合わせた対策が必要だと考えています。渋滞は県警さんなんかと協議をしながら信号のタイミングとか、歩行者と自動車の信号を分離したりなど対策をしています。あと道路の対策としては順次道路の交通量などを調査しながら、例えば車の量が減ってきたところだと車線の数を減らして歩行者、歩道を広げたり、自転車専用の道路を設けたりというのを道路再編っていうんですけれども、順次進めていまして、ロープウェイ街とか、花園町通りとかそういったところずっと取組を続けています。花園町通りだと道路が4車線あったんです。副道っていうのがあったんですけども、道路を2車線にして歩道を広げて、さっき申し上げた、再配分を行つて、景観にも配慮した整備を行つて、平成30年に全建賞とかアジア都市景観賞とか、令和元年度には全国街路事業コンクールなどで国土交通大臣賞とか土木学会デザイン賞、最優秀賞とかたくさんの賞をいただきまして、地域の方の自慢の道路にもなっています。今ですと、市駅前のロータリーの再編ですとか、あとJRの高架化に伴つてその周辺の道路の計画を見直したり、あと都市計画道路っていうのもあるんですけども、これも需要に応じて適宜調査をして見直しなども進めています。

【市長】 なるほど、細かい住所地まではいいんですけど、どのあたりどの校区ぐらいにお住まいですか。

【質問者】 来住とか久米とか。

【市長】 分かりました。ありがとうございます。大きく言うと、まず今、外環状道路っていうのを作つてるんです。国道33号の松山南警察署のところから、今、空港の方までずっと延ばしてきました。もうできるだけ分かりやすく言いますね。私、平成22年に市長に就任させていただいてるんですけど、当時は南署のところから外環状線の工事を始めたぐらいでした。それが今、坊っちゃんスタジアムの横も通つて国道56号、

余戸のところを高架がまたいで、今空港のところまでだいぶ延びてきました。そうやって外環状線ができると、わざわざ市内に入って来なくてすむんですよね。そうすると、貨物の方は渋滞なくできるだけ早く進むし、緊急の災害のときにも輸送路として有効だし、車が市内に入ってこないことになる、住宅地に入ってこなくなるから、交通事故も減るしCO₂の排出も減らせるっていうので、今どんどん外環状線を延ばしてきたところです。高架は、国が作ると、ざつと思ってください。側道は県や市が作ると思ってください。国にお願いして、国もいろんなところから要望されますから、いろんなところから作ってください、作ってくださいって言われるんですけど、今、OKしてもらって、空港から旧北条市の方まで延びていく計画は一つ段階が上がりました。久米の方は南警察署の方から国道11号、まさに久米の方まで延びていくように計画が決まりました。今、大きくハードでいうと外環状線を延ばしているっていうところがあります。本当に身近な道路の話題で言うと、「道路の横に水路があるんやけど、水路埋めてくれたらええんよ」って言われるんですけども、あれは使ってる方がいらっしゃって、農業の方が使ってるんですよ。「せめて蓋してくださいよ」って言われることあるんですけど、蓋すると、水路を利用している農業者の方々は、いざ詰まったときの掃除がしにくくなるとかいう声もあります。ご理解いただいたら、蓋することはできるんですけど、そういう事情があります。交通事故、我々としては交通事故を1件でも減らしたいんですけども、極端な話、全部歩道にガードレールをつけたら、安全性は高まりますけども、「ほんなら私ら、周辺道路に住んでいるのに、ガードレールをつけてしまったら車が出せんがね」というところがあります。ですので、周辺の方々のご理解をいただきながら作れるところは、ガードレールとかを作っていくっていう形になります。どうしてもできないところはやっぱりソフト対策。通学路にちょっと年配の方々がこうね、ビブスつけて安全の旗持って出てくれたりしてますよね。警察の方って60で退職した年でもお元気で、武道の心得もあって、安全に対する交通に対する知識もあるから、警察のOBの方にスクールガードリーダーっていう役になってもらって、安全面で配慮してもらう、防犯面で配慮してもらうというソフト対策もしています。ハード対策、お金も要りますけどね。ハード対策もしながら、ソフト対策もしながら、いろいろ組み合わせながら安全性を高めているところなんで、全体の方針としてはそんな形で進めています。皆さんのお声を大事にしていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

【質問者】 今日は貴重なお時間ありがとうございます。移住して3年目になります。僕も少しだけ全国転勤の会社員で営業してたんですけども、たまたま愛媛県に10年前に移住して、最初嫌だったんですけど、実際住んだら、子育て環境も良くてすごい気に入りまして。ベタなんですけどコロナ禍でちょっと農家になりたいっていう気持ちもあったので、今は柑橘農家として生活しています。よろしくお願ひします。質問なんですが抽象的なことになるかもしれません。都市整備に関して、付け加えてというか。ち

よつと前に愛媛県でしたっけ。こっちでも交通事故死者数が全国ワーストっていうことで。僕も農家しているので、正直ちゃんと運転免許を持たれてるような方が運転をされてるっていうのは重々分かってるんですけど、高齢者の方で、めちゃくちゃ危ない運転される方が多く散見されます。実際そういう都市整備というか安全を守る、二つ目のところにも関わってくるかもしれません、特に高齢者の運転に対しての何か取組とか。このままじゃ、5年10年後、うちも小さい子どもおりますので、巻き込まれるのも嫌ですし、そういう取組みたいなものがあれば教えていただきたいなと思います。

【市長】 私の方から先に、県警さんと話をすることがあって、愛媛県警さん。それこそ刑事の分野とか交通の分野とか公安の分野とかさまざまありますが、交通の分野の方とお話をすると、各世代別の事故を起こした割合を比較すると、特に高齢者が多いわけではないということなんですよ。でもやっぱりメディアで取り上げられる機会が今多いですね。ブレーキとアクセルを踏み間違えて、コンビニに突っ込んでしまったとかスーパーに突っ込んでしまったとか、そういう例がすごく取り上げられるので、社会的に今の高齢の方の免許の取得について、ちょっと注目が集まってるっていうのは確かにころだと思います。県警さんの交通の方に聞くと、特に割合的に多いわけではないということです。

【都市・交通計画課 副部長】 高齢者の方を対象にした交通安全のための取組ということなんすけれども、高齢者の方に特化したというかですね、松山市の方では交通安全っていうのを生涯学習と捉えてまして、地域に行って交通安全を訴えるっていうことをやっています。小さいので言うと保育園、それから高齢者の方の集まりなどにお伺いをして、歩道の歩き方や自転車の乗り方、安全な運転の仕方、そういったことに、教室を年トータル約200から230件ぐらい、ほぼ毎日うちの職員が交通安全協会の方にご協力いただいて安全教室を開いてですね、安全について呼びかける取組などをしています。あとは特にこういったところが危なかったよとか怖かったよというご意見をいただいたときには、現地を確認して警察とか地域の皆さんにも現地と一緒に見ていただいて、マナーの向上の方法を考えたり、安全対策を考えたりなどもしています。

【市長】 運転免許を返納していただいた方に、松山市から5,000円の公共交通を利用できるパスっていいましょうかね、お渡しをしてきました。今の返還率っていうのはすごく高まってきてるんですよ。で、アンケート調査させていたら松山市から5,000円もらえるのがきっかけになったかっていうパーセンテージがだいぶ下がってきてるので、一旦終えさせていただきました。でも、本当おっしゃるように、高齢の方が事故を起こすっていうのは、すごく注目をされているところなんで、できるだけ公共交通に乗っていただくとか、メーカーさんからも衝突するようなときに安全に配慮された車ってのはだいぶ普及してきてますけども、そういうことも併せ技にしていろいろと取組んでいけたらなと思います。

【質問者】 昨年4月にこちらに東京の方から引っ越ししました。自分の意見の前に今のおっしゃってた話で、高齢者が多く感じるっていうのは多分割合として変わらないっていうのはおっしゃる通りだと思うんですけど、多分人数が多いので。目にする頻度も多いっていうことが、多分そういう認識として出てるっていうので、世代別に変わらないとしても件数としては多いと思うんですよね。それが多分、実感として出てるっていうところだと思うので、割合が変わらないから高齢者が多いっていうことよりは、件数として絶対数として多いので問題だということだと思うので、そこはちょっと分けて考えた方がいいのかなと。

【市長】 割合と件数のことを交通の方に聞いて、またお伝えしますね。

【質問者】 こちらに来て、すごいやっぱ魅力的な街だなというのは感じて、すごい住みやすいですし。なんていうか、不便なことが特にないというか生活する上で、過ごしやすいなど感じつつ、さらに都内だと、もう周り見るものが全部ビルとか、人工物が、こちらに来るとそれがもう景色が山とか自然に置き換わってるような感じで、すごい開放的な気分にもなれて、魅力的だなと思うんですけど。向こうにいた実感として松山という街がそもそもどんな街かという情報がほとんど、住んでるときに四国がそもそもやっぱすごい遠い場所っていう認識がやっぱあって、今人口も50万人もう切ってしまってる状況だと思うんですけども、今後の人口維持もしくはさらに伸ばしていくって考えたときに、どういう方向性に重きを置いているのかというところが一点、市としてどういうお考えなのかというのが気になっている点と、あと今、松山市駅の方は割といろいろあると思うんですけど、松山駅の方がこちらに来て分かったんですけど、あんまりその主要な場所ではないということがこちらに来て、やっぱり相対的にそういう位置づけなんだなっていうのはあったんですけど、外から来ると、やっぱJRの中心の都市の名前がついた駅っていうと、そこが一番活性化してる街という認識でまず来るんですね。で、空港からバスで来て、松山駅とかで降りたときに、もうなんか何もないというかキスケが見えるぐらいの感じになってしまって。そういう認識でも、その松山駅、その街のづくりも道後とかそういう魅力的な観光資源とかもあったりするんですけども、何を推していきたいのかというのも、こちらに来て何か分散してしまっていてもったいないなというのがあるので、今、その駅前のいろいろ工事とか進められてますけども、そこもどういった方向でこれから計画みたいなものが、今出てる以上のもので何か分かるものを教えていただきたいなと。

【市長】 これあんまり私ばっかり長く喋りすぎたらいけんので、あんまり長くならないように喋りたいと思います。まず松山市駅と松山駅の関係からすると、まず、松山というところは、私鉄の伊予鉄道さんが先にできたんです。もう日本の中でも私鉄の中で早いんです。まず、まちの中心に松山市駅ができたんです。もうごちゃごちゃになりそうんですけど、これだけ言いますね。最初はあそこが松山駅だったんです。次に国鉄、今JRですが、国鉄が高松の方からどんどんどんどん伸びてきて、あとになって、国鉄の

松山駅ができたんですよ。で、どちらかというと、市内のちょっと外れにできたんですよ。それが現在の国鉄松山駅、JR松山駅です。それで、松山市駅に名前変えてっていうことで、松山市駅になったんですよ。松山市駅の方は、県外から来られた方できるだけ分かりやすく喋りますが、横河原線っていうのは東温市に向かっている線路で、郡中線っていうのが、松前町や伊予市に向かっている線路で、高浜線というのが、こちらの方、三津浜とか高浜に結んでいる鉄道で、地域の公共の地域の交通の拠点が松山市駅なんですよ。で、JRの方は、高松と結んでるとか、宇和島と結んでるとか、岡山と結んでるとか長距離バスで広島と結んでるというか。広域の交通の拠点が松山駅っていう役割分担です。これを無理に引き付けようと思ったらものすごいお金かかる話になるんで、これは二つで分散してやっていこうと、将来的には自動運転で結ぶとかっていうやり方がこれから出てきますね。それで、そんな中で道後の話もしていただきましたが、道後は100年に1回の大修理はもう終わったんですよ。なので、もう子どもや孫の世代はあんなしんどい思いはせんでもいい。良くなつたと思ってます。松山市駅は来年、再開発が終わります。あれは平成1桁ぐらいから、「もう再開発せないかんね」って言ってたんですけど、関わる人が多いと、なかなかまとまりにくいですよね。まとまったと思ったら、リーマン・ショックが起こって、計画自体が立ち消えになつた。そんな経緯があります。でも、さつき言ったお隣の花園町通りっていうのはすごく綺麗になつたので、アジア都市景観賞とか、全国の街路事業コンクールのNO. 1、国土交通大臣賞とか、今大阪の御堂筋がそういう形で再開発しています。お隣が綺麗になつたんで、市駅の方もまとまっていただいて、言つたらもう50年ぐらいの案件かな、来年再開発終りますっていう形です。で、松山駅に来て寂しいなと思われたと思いますけども、今もまさに再開発中です。旧の駅舎は71年使つたので今100年に一度80年に1回のまちづくりをJR松山駅でやつているところです。松山市としては大きな将来像として、あそこにホテル立体駐車場、商業の施設、そして飲食の場所で、今、暑いですから、暑い寒い関係なく子どもが遊べるような子どものアミューズメント施設、そしてアリーナを建てたいという将来像を掲げていますので、どこの民間さんとやりますかっていう話だけですね。今年度中にモデルプランを出すっていうのが大まかな流れです。今まさにJR松山駅は80年100年に1回の機会が来ています。皆さんちょっと私より若いんですけども、後の世代に残していくようなJR松山駅周辺に。道後ができた。松山市駅も来年できるっていう中で、今ちょうどJR松山駅の番かなと思ってます。しっかりとやっていきたいと思っているところです。

【質問者】 去年、移住をしてきました、それまで愛媛県に来たこともありませんでしたし、妻が愛媛出身だったので、どうしても移住したいと言うか、帰りたいと言われたので、ついてきただけなんですが。ずっと地元は兵庫県の淡路島で、大学は京都で、最初の会社員で就職したときも、関西だったので、もう関西以外に住んだことはなかつ

たです。松山に来て、坂も少ないし、非常に住みやすいんですけど、一点だけ、非常に困ってることがあって、インターチェンジが非常に遠くて、今、堀江に住んでるんですけど、東温のインターに行くってなったら山越えなきやいけないし、松山インターに行こうと思ったら、渋滞に巻き込まれて、1時間ぐらいかかるとか。地元が兵庫県淡路島で、一人っ子で親しか住んでなくて、ちょっと帰ったりしなきやいけないときもあるし、地元の友達とか、みんな大阪とか京都にいて、遊びに行くってなっても、その辺に行くので、大体、月に1回ぐらい関西に帰ってるんです。で、そのインターを使うのに悩んでて、結局、今治の湯ノ浦まで行こうかとか、しまなみ行こうかとか、淡路島帰るんやったら、松山道を使ったら近いので、そっちに行くし。元々、宝塚に住んでたんで、宝塚に行くってなったら、しまなみ通るから、結局、今治インターまで行く。松山でインター乗らずに今治まで行こうかなってなってるんです。なんで、堀江とか北条ぐらいにインターがあつってくれたら非常に助かるので、その辺り、計画あるんでしょうか。

【市長】 私の方から言います。将来的にできます。今さっき、ちらっと申し上げた、空港から松山市平田町、あの明屋書店の平田店の辺りから北条に向けて、広い道路、バイパスがありますね。あそこに繋がる形になると思います。松山空港から今、外環状線を延ばすところが、かたい言い方で言うと、計画段階評価にステージが上がったので、今、ルート選定をしています。空港からどの道を通って平田の方まで延ばしていくかつていうのをやっているところなので、国と一緒になって延ばしていくようになります。それこそ乗りやすくなりますから、わざわざ松山インターの方まで来なくても、外環状です一と回っていけるような形になります。娘が学生時代、兵庫県でお世話になってましたんで、すごく気持ち分かります。そんな状況です。さっき私、言い忘れてた、すいません。松山の特徴なんんですけど、第7次松山市総合計画って書いてます。総合計画っていうのは、市で10年に1回作る計画です。環境の計画とか、教育の計画とか、いろんな計画があるんですけど、最も上、最上位の計画が総合計画というものです。難しい計画を立てて、誰も市民の人が見ないというのはいかんじやないですか。ですので、分かりやすい、こういうパンフレット型の総合計画作ったんですね。今日、皆さんに持って帰っていただこうということで、用意しています。松山の特徴は、裏表紙めくったところにあるんです。読み上げると、住みたい田舎ベストランキング2024全国1位。防災士の数全国1位、防災に力を入れている。紅まどんなの生産量、もうすぐ出荷になりますけど、全国1位。市民1人1日当たりのゴミ排出量の少なさ、県庁所在地の中でも一番少ない。通勤通学にかかる時間の短さ、全国で2番目に短い。余暇時間の長さ、全国で2番目に長い。空港への良好なアクセス、全国トップクラス、福岡か松山空港かと言われますね。アジア都市景観賞。先ほど申し上げましたSDGs未来都市に選ばれている、というような特徴を書いています。ざつと言いましたけど、そんなところが松山の特徴かなと思います。全国との都市間競争に入っていますから、松山の特徴をしっかり持ち味を出し、いいまちづくりができたらと思います。

広報タイム① 「家具転倒防止対策の必要性」

【質問者】 東京からきました。元々、松山出身で、市長と同じ高校出身です。大学進学で東京に出て、東京で妻と結婚して、こちらに戻ってきたという感じになるんですが、移住の決め手となる2点は、まず人が優しいということ。圧倒的に他の地域より優しいです。で、時間の流れがだいぶ緩やかだなっていう感じがあります。あとは、東京の人間はほとんど車持たないんですね。で、決め手となったのは、車なしで住める地域っていうことです。もちろん出身ということもありますけど、松山を選択させていただきました。その上で、いくつかこうあればいいなっていうのがございまして、その内の一つが、電車がもう少し整備されてるといいかなと。つまり、どんどん高齢化社会が進んでいくに従って、車を手放さざるを得なくなる。そうなってくると、やっぱり電車、交通機関、バスも含めてですね、活用する人が多くなると思うんですけど、やっぱり本数が少ないとということ、高いなっていうイメージがあります。あと終電も、もう少し遅くてもいいかなと。あとは、みかんが思ったより安くないと。こっちに来たら、結構、みかん安く食べられるんだよね、みかん食べ放題だよねって東京の人から言われるんですけど、そうではないなというのと、あと、新鮮な魚が結構口に入るのかな、安く手に入るのかなとか、そうでもないなというのであるので、もちろん、交通網もそうですが、松山の魅力、みかんが安く食べられるとか、あるいは新鮮な魚が食べられるっていう環境整備があれば、口コミで東京の仲間にこっちに来るといいよって言いやすいかなと思いますので、何か、ご検討いただければと思います。

【都市・交通計画課 副部長】 まず、公共交通のことなんですけれども、やっぱ高齢化も進んでいますし、公共交通の必要性がどんどん高まっていくのは、松山市としても承知しています。ただ、バスとかフェリーの事業者さんなんんですけども、高齢化もありますが、人口減少もあったりとか、利用者が少なかつたりとか、あとは人件費とか燃料費が高騰している状態で、今、毎年赤字が続いている状態です。松山市もそうですけども、県とか国が助成をして、サポートして、路線を何とか維持しているというのが、正直、そういう状態です。なかなか厳しくて、終電の時間を延ばしたりとか、便数を増やすのも難しいというお話を聞いています。そんな中でも、何とかしていかなきゃいけないということで、例えば、バスだと、運転手さんが高齢化したり、人材確保が難しいっていうのは、ニュースか何かで聞かれたこともあると思うんですけども、伊予鉄バス株式会社とか、愛媛県が協働して、自動運転の取組をもう始めてまして、来年の1月から松山環状線、2月からは道後と松山城の路線バスをですね、無人で運転できる自動運転レベル4っていうんですけども、そういった運行の取組などもされています。それから、利用状況とか安全状況とか見て、そういうことが可能になってくれれば便数を増やしたりとか、無人バスの路線を広げたいということでお話を聞きしています。また、そうは

言っても、なかなか全部ってのは難しくて、もう既にバス路線が廃止になったような地域もあります。そういったところでは、地域のタクシー事業者さんを支援させていただいてですね、予約制の乗り合いタクシー、バスに代わるもので、公共交通を維持するという取組もさせていただいてます。

【市長】 柑橘の話と魚の話をさせていただいたいたらと思います。先ほど、みかんをされてるって言われましたけど、これを市長の立場からすると、二つあるんですよ。農家の方の所得を向上させていくっていう取組と、できるだけ安く買いたいよねっていう両方あるんですよね。今、100人が100人とは言えないんですけども、うちも旧北条市に実家があるって、田んぼがあるって、畠があるって、みかん山があるって、っていう家だったんですけども、それこそ、みかん、伊予柑、昔は主流にやっていた農家さんがいらっしゃって、うちのばあさんなんかもそうだったんですけど、キウイが値段がええみたいな言うて、キウイ、ばあさんがやりだしたと思ったら、もう、みんながやりだしたものやから、値段がドーンと下がったりして。そういうようなこともあって、やっぱり今、東京の大田市場の方々なんかとやり取りしたり、また、千疋屋さんとかね、高野でしたっけ、そういう果物専門店とかありますが、やっぱり、そういう方々から言われるのは、品質のいいやつを、ある程度、ロットを揃えてくださいって。気象が変わる中で、本当に農家の方、大変だと思うんですよ。見栄えのいいもの、味がいいもの。で、うちはどうするかというと、農協さんと一緒にになって、光センサー選果機っていうのを入れて。今、偉いですよ。例えば、紅まどんなに、鳥がつかまると、人間の目では見えないけど、鳥がつかんだだけで傷が入るんですね。そこに雨水が入ると、3日ぐらい経ったら腐っちゃうんですよ。そういうのも、光センサー選果機だったら、ちっちゃな傷があるってはじけるんですね。糖度がいくら以上とか、酸がいくら以下とかいうのが見分けられるんですね。そういう光センサー選果機を導入するのに支援する。で、紅まどんなは、東京で買おうと思ったら、倉庫賃とか運び賃とかがりますから、地元の方がまだ安くは買えます。紅まどんな。それと、元々、松山出身なので、知り合いの方も多いかと思いますが、結構、松山の方って、「ちょっと傷もんやけどあげらい」と、結構もらうことが多いんですよね。そういうので結構楽しんでらっしゃる方、多いかなと。魚は、釣りはなさいませんか。私も行けてないんですけど、今、本当に、遊漁船の方も若い方出てきていて、トイレ付きの遊漁船もあって、松山沖、連れて行ってもらって、タイラバっていう、ラバーの疑似餌を使って、こんな鯛がいっぱい釣れるとか、イカがいっぱい釣れるとか。漁場的には、漁師さんはなかなか大変みたいですが、そういう魚釣りして、楽しんでいらっしゃる方もいらっしゃいます。例えば松山市内だったら、海響市場とかJR松山駅のそばの太陽市とか、また、今治に行ったり、周桑の方に行ったりとか、八幡浜行ったりとか、宇和島行ったりとか。ドライブがてら楽しんでる方もいらっしゃるので、また、ちょっとお気に入りを探していただいたらと思います。元々、松山ご出身で、奥様と一緒に帰ってきていただいて、本当にありがとうございます。いろんな楽し

みをまた見つけていただいたらと思います。よろしくお願ひします。

【質問者】 先ほど、主人が話した通り、去年ですね、東京の方から移住して参りました。私達は子どもが3人おりまして、上が2人、小学生と下が幼稚園なんですけれども、本当、こちらに来て、子育てすごくしやすくて、もう本当、街もよく、人もよく、あの、すごく私、東京の友達や親戚にアピールしております、本当に親戚の中で移住しようかと考えている者がいるくらい。本当に、こんなところがあつたんだっていう、私的にも、地域というか、本当に引っ越してきてよかつたなと思っています。いろんなものが本当に子育て世代にありがたい、安かったりとか、本当、ご近所の方がみかん持ってきてくれたりとか、本当にそういう仲なんですけれども、一点だけ。以前は、東京の大田区に住んでたんですけども、そちらの学校では、大田区の方で、小学校の給食の無償化がありまして、その点で、すごく助かっていた点があります。こちらに来て、給食費が、やはり小学校でありまして、もちろん物価高で、きっと据え置きとか、頑張っていただいているのは、きっとそうなんだろうなと感謝しているんですが、今度、3人目もまた小学校に入学するので、ここの点が、すごく、財政の違いとかもあると思うんですけども、今後、保護者の方たちともいろいろお話ししていく、国からも、いろいろ無償化の話が出てると思うんですが、市として、何か国よりもスピードーに、何かやる、具体的な案とか、そういうものが出ているのかなと。もし、そういう点が実現すれば、すごくありがたいと思う保護者の方、たくさんいるだろうなと、私自身もすごく思っていますので、今後どういうふうに考えておられるのか、お伺いできればと思います。

【市長】 ありがとうございます。私、平成22年に就任させていただいたときには、医療費、体調が悪くなつて、お医者さんに行くのが通院ですよね。体調が悪くなつて、もう病院入らないといけないっていうのは入院ですよね。就任したときは事実として、入院についても、通院についても、小学校に入るまでしか無料じゃなかつたんですよ。これは、もうタウンミーティングで皆さんと意見交換させていただいて、ここはやるべきだなっていうことで、結構お金が要るんです。お金が要るんですけど、まずは小学校6年生まで、入院や通院についても無料で、段階的に、今、高校卒業の18歳年度末まで、入院についても通院についても、無料まで来ることができました。これ、議会の皆さんにも同意をいただかないと、市長が勝手にできるものではないので、同意いただいて、できるようになりました。今度は、もちろん、子どものことだけじゃなくて、年配の方々、今の日本、今の愛媛、今の松山を作ってくれたのは、人生の先輩方ですから、人生の先輩方への施策ももちろんやるんですよ。で、いろいろと皆さんのお声を聞く中で、給食費やりたいんです。私としても、給食費は、もうそれこそ中学までですね。小学校についても、中学校についても、給食費の無料はやりたいっていうことを、考えてやってたんですけど、なにせお金が要るんです。1年間に、小中を合わせて、今、ちょっと具体的な数字が出る方いらっしゃるかな。小中まで無料化しようとすると。

【教育総務課長】 毎年18億5,000万円です。

【市長】 ありがとう。毎年18億5,000万円いるんです。小中学校まで給食費無料化すると。これもう、市長の立場としてつらいのは、1回始めると、皆さんに喜んでいただける事業って、3年経って、もうお金が厳しいんでやめますってできないんですよ。ということは、1回、中学まで無償化しますよってしたら、18億ずつといるんですよ。ずっといるっていうのを覚悟しないといけない。10年たったら180億いるっていう話なんですね。あんまり長くなつたらいかのんですけど、東京と地方は、お金の持ってる度合いが全然違います。夏目漱石さんの関係で、新宿区さんと仲良しなんですが、東京オリンピックの関係で競技場の周辺に、水の浸透が良い道路を作ったんですね。そのときに、私どもは、国からどれぐらい補助金出たんですかって聞いたら、キヨトンとされるんです。東京の方は、国からのお金なんていらないから。もう、税収が全然違うから。ですので、地方は国からのお金をいただかないとできない事業って多々あります。ですので、1年に18億使おうとしたら、どつかで18億削らないかんのですよ。これが、ちょっと悩ましいところです。やりたいねっていうところで、国が、令和8年度までにやることを目指す、でしたかね。

【教育総務課長】 令和8年度に、小学校の無償化を目指しています。

【市長】 はい。という国の動きが出てきましたので、国の動きを見ながら、やっていこうっていうところです。気持ちとしては、やりたいと思っています。これで最後にしますが、小学校・中学校の体育館、小学校が53校、中学校が29校あるんですが、このエアコンの整備ができるねっていうことで、今、これ打ち出したところです。こちらもお金は要るんですけども、給食費の無償化は国の方がやると言っているので、市としては、避難場所にもなるところなので、教室の方のエアコン整備はもうできたんですけど、小学校・中学校の体育館のエアコン整備、国もそういう予算の枠組みを作ってくれたので、松山市としては、こっちをやっていこうと考えているところです。

【質問者】 昨年の12月に東京の方から移住してきました。家族4人で移住してきました、年明けの1月に3人目の子どもが生まれる予定です。愛媛生まれの子どもができる予定です。長男が今、小学生なんですけれども、学校に行けてない状況でして。報道でも、全国的にまた増え続けてるっていうお話があったんですけども。担任の先生がすごい、学校がサポートしてくださいまして、週に1回ぐらい放課後学校に行って、少し勉強を教えていただいてっていうのを個別にやっていただいたりしていくのがたいなと思うんですけども。その所属している学校以外の不登校の支援で言いますと、わかあゆ教室をご紹介いただいたりもしつつ、なかなか普通の学校に行けてない状況で、それに近い何か学校のようなところの教室にまた行くっていうのもなかなか難しい子、うちも含めて多いのかなって感じているところでして。例えば民間のフリースクールなども視野に入れながら、他に増え続ける不登校のお子さんを、学びの場を確保する

ためにこんなことをやっているですか、こんなことをこれから取組んでいきたいっていう方針などありましたらお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 多様な形があっていいと思うんです。58歳になりますけど、私達の頃のように、もう絶対に学校に行きましょうとか、給食は頑張って全部食べましょうとか、そういう時代ではないですね。本当多様な形があっていいと思うんです。やっぱり確実に変わってきますので、それでいいと思うんです。

【教育総務課長】 松山市では、今、不登校、学校に登校しづらい児童・生徒のために、いろいろな取組をしています。先ほどまことにやっていた、わかあゆ教室をはじめ、北条の方にも教室がつきました。そして中学校の方ですね、校内サポートルームと申しまして、なかなか教室に入りづらいお子様のために、一部の学校にはなるんですけども、設置していくとして、それをなるべく早く中学校全体に設置していきたいと考えています。

【市長】 また、何かご心配なこととかあったら、教育委員会に遠慮なく相談してください。私達はできるだけ子育て支援をしていきたいと考えていますので、遠慮なく相談していただいたらと思います。

広報タイム② 「食品ロスをへらしましょう」

【市長】 先ほどお話していただきました。Mr.s. GREEN APPLEってアーティストいらっしゃいますけども、テレビ見てて、もう大ヒットを連発されてますが、ボーカルの大森さんって、中学校ほとんど行ってないんですよってご自身で話してらっしゃいました。いろんな形があっていいと思うんです。子育て応援します。さあ、残り時間いっぱいまでいきましょう。

【質問者】 このような機会を設けていただき、ありがとうございます。今年の5月末に東京から移住してきました。私の子どもが今、年長で小学校に来年入学をするのですが、通常学級でやっていくにはちょっとサポートが必要な子なので、初めは通常学級に学級支援員さんにちょっと入っていただけないかなっていうことで学校に相談をしたのですが、支援員は1日に2時間くらいしか付かなかったり、制度としては年間600時間あるけれども、目一杯もつかないし、目一杯ついたとしても子どもの1日のサポートっていうのは難しいというようなところで、せっかくサポートの制度はあるものの、何か実際にはそういった支援が必要な子に、それではサポートがしきれないっていうので、活かしきれていないのかなっていうようなことを感じています。私も東京で支援員をやっていたこともあります、子どもたちにサポートがあれば、いろんな形で社会性を集團の中でも、学んでいけるなっていうことも感じていたため、また先ほどもあった財政の面とかいろいろあると思うのですが、そういった学級支援員さんの時間をもう少し延ばすようなことっていうのもお願いできないかなと思いました。また、そういった

支援をされている方の何か話を聞いたこともあったのですが、実際に本当に1人の一つの学校で、いろんな子を、ちょこちょこ見ないといけなくて。でも実際には、もっと本当はこの子にじっくり関わってサポートしたいけれども、制度としては、何か私が見る人数をちょっと超えてしまっていて、できていないっていうようなところで、そういうふた実際に働いている方も何か思いはあるけれども、なかなかやりきれないっていうところで続けるかどうか、どうしようかなっていう声で、実際に支援員も集まらないっていうようなこともあったので、何かその辺りのこともご検討いただければと思います。

【教育総務課長】 小学校で学級支援員さんとか学校図書館の支援員さんとか、いろいろなことで学校のサポートをしていただいている方、たくさんいらっしゃいます。今お伺いしました、やはり時間が限られるとか、人数のこととかっていうのはいろいろ問題点等があると思います。一度持ち帰らせていただきまして、また担当所管課の学校教育課の方にもこういった声があるということを、申し上げまして、また検討させていただいたらと思います。

【市長】 松山市は50万人超え、49万だったんですけども、20万人から70万人の市を中核市って言います。それより大きいと政令指定都市になるんです。今私、中核市の役員をしていまして、文部科学省の方とか、国土交通省の方とか、中央官庁の方といろいろと話をすることがあります。大きな流れとして、私達が子どもの頃は、例えば40人とか45人学級の中で何人かは、将来なりたいものって小学校の先生って書いてた子絶対いたんですよ。でも今、先生になりたいっていう人、やっぱ昔に比べ少ないですね。今、大きな方向性として、これって本当に先生がやらなくちゃいけない仕事なのがっていうのは、先生じゃなくていいのは、他の方でやっていただこうっていうことでやらせていただいています。そういう形で、先生ができるだけ子どもさんと向き合う時間を確保しようという流れで進めてるんです。サポートしていただく方が、皆さん的大事なお子さんだから、誰だっていいよねっていうわけにはいかないじゃないですか。それこそ極端な話、悪いことをしてやろうっていう人が装って学校に入ってきたんじゃ困るから。じゃ、どういう人にサポートしてもらいますかっていう、そのところが難しいところがあります。あの大事な意見だと思いますんで。軽々にお話することはいけないかなと思いますんで、持ち帰らせていただいて、また1ヶ月をめどにお返しをさせていただいたらと思います。

【質問者】 今日はありがとうございます。14年前に松山の方にきました。主人も今日一緒なんんですけども、県外から来まして、松山が気に入りました、そのまま定住という形でお世話になっています。教育・子育ての方に関する意見というのでしょうか、松山に来てすぐに出産をしました。2人とも県外だったので周りに頼れる両親や知り合いもおらず、自分が出産をして、仕事もまたしていきたいとなったときに預け先をどうしようかというところですごく悩みました。いろいろな方に相談などをして、公立保育園

の一時保育、15時まで、今もそうなのかな。使えるところを利用させていただいたり、病気になったときの対策として病児保育などを使わせていただいて、何とか乗り越えながら私立の幼稚園に通い始めて、今だいぶ子ども園さん多くなってきてるんですけども、当時まだ移行期間中だったので、利用できる範囲で長く延長保育なども使いながら小学校経て今中学2年生になるんですけども。私の仕事がちょっとキャリアコンサルタントなので、お母さんのお仕事の相談とかも聞いてたりすると、松山に住んでる方も外から入ってきた人もそうなんですが、子どもの預け先っていうところを、まだあまり情報をご存知ない方だったり子どもが病気になったら仕事休まないといけないよねみたいなときに、病児保育っていうのを知ってるって聞くと、意外とまだ知らなかったりっていう感じで。私もそこで自分が使わせていただいたところだったり、新しく調べさせてもらいましたら8カ所ほど、もうだいぶ増えてるななんて思ったんですけども、いろんなアドバイスをさせていただいたりしているんです。小さい頃で必要なそのサポート資源っていうところと、あとは子どもの成長に合わせて、預け先のまた必要な情報っていうのが変わってくると思うので、その辺をどこに相談をしたり、どこで情報を得ていいたらいいのかっていうのを意外とまだご存知の方が多いなというお話を伺いしたり、自分も手探りで探しながらとても感じていました。いざ子どもが少しずつ手を離れてきて働くようになったときに、小学生の壁というんでしょうか、小学校の壁も自分たちもぶち当たりまして、学校についている児童保育に預ければいいかなと思ってたら、定員がいっぱいだったり、子どもが嫌だっていうたりってなったときに民間の児童クラブってどうなんだろうって探したら、すごく少なかったんですよね。なのでもっと民間の児童クラブっていうところも増えていったらいいなと思います。病児保育の病院とか施設もそうなんですけども、ちょっと大きくなつたときに小学校向けの預け先。未就学児の保育託児とか、今日も託児ありますけども。そういう相談先とかイベントとか多いんですけど、小学校になると、受け皿がぐんと少なくなります。あと、高学年になっていくと、低学年の方が優先されるので、高学年4年生以上はおうちにいないといけないみたいな1択になってきてしまうと、その辺って、私も成長過程見てるとすごく大事な時期かなと思っています。さっきお話をされてた不登校だったり、小学生の高学年とともに見据えたような預かり先が地域ごとにあったらいいなと思います。

【こどもえがお課長】 お子さん全体的な居場所ということになるかと思うんですけれども、保育所とかの未就学児は確かにおっしゃられるように、どんどん増やしてきています。幼稚園から認定こども園さんの方に移行していただくことで、小さい1~2歳以上の方を受け入れるとか、そういう整備ができるんですね、計画上はですね、今年4月に松山市こども計画というのを作っていますね、その計画上の利用定員は一応満たしておりますんですけども、やはり保育士さんとかの人の確保が難しいというところでですね、受入ができないというようなところ、実際ございます。ですから松山市としましても、その人材を確保するためにですね、いろいろな施策をしています。ただ人が不足してい

るというのが課題でなかなか難しいところです。未就学児については、そういう形でどんどん増やってきてまして、小学校上がってからなんすけれども、児童クラブもどんどん増やしてきてます。ただ、この児童クラブの方も支援員さんの確保という課題で、なかなか待機児童の解消とまでは行ってないのが現状です。公立の児童クラブは、そうなんですけれども、民間の児童クラブも徐々に増えてきてまして、松山市としても、新たに去年度から補助金を出すような形をとっています。そういったことで、これからもどんどんお子さんの居場所を確保していきたいと考えています。

【市長】 補足させていただきます。仕事をしていて、悩ましいのが、私あの、元々民間の仕事20年間アナウンサーをやっていたので、放送局にいた人間ですけども。松山市って皆さんの税金を使わせていただいて、お仕事をしていまして、市民の皆さんによかれと思って仕事やってるんですが、案外皆さんに伝わってないんですよ。全てのご家庭に月2回行く広報紙とか、テレビの広報番組とかラジオの広報番組を使ってやってるんですけど、なかなか伝わってない。これが悩ましいところです。松山市の子育てサイト「にこっと」いうのを始めています。こちらに結構子育て情報集めていますので、また探していただいたらと思います。この間のタウンミーティングでも「情報を探しに行ってください」って申し上げたんですけど、我々もできるだけ情報発信に努めてまいります。私も放送局にいた人間なんですけど、テレビのニュースとか新聞とかやっぱどうしても部分なんですよ。絶対記者のフィルターが入るんです、人間ですから。ですから、私達の立場からするとちょっと違うよなみたいなこともあるんです。で、今、インターネットのニュースに押されていて、既存のメディアがちょっとセンセーショナルな報道になっているなというのを感じるんです。本当にある事象なんだけど、このメディアが言っていることと、このメディアが言っていることがちょっと違うぞみたいなこと也有って、メディアリテラシーっていう言葉もできているような感じです。ですので、どうぞ皆さんでも情報取りに行くっていうのを大事にしていただいたらと思います。私達もできるだけ情報発信に努めてまいります。こういうサイトも出ましたので、また見てください。もう一方ご意見をいただけたけたらと思うんですけども。「市民」の皆さんのが「役」に立つ「所」で、「市役所」じゃなきゃいけないと思ってますんで、こういうふうに変えてくださいよとか、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【質問者】 7年ほど前に夫のUターンで神奈川県から来ました。今日教育委員会の方とかいらっしゃったので、せつかくなのでと思ってご意見させていただけたらと思ったんですが、子ども、今小学生が2人いるんですけど、夏休みとか家庭のお勉強の支援みたいなところが、何か宿題とかが他の県とかに比べると多いように私は感じていて、そこは他の市内のお友達とかに聞いてもこれだけあるよと言つて、全然別の県外の方とかに聞くと、「その辺は夏休みとかも自由でやれる人がやればいい」みたいなという話を結構今年よく聞きまして、何かその辺りエビデンスがしっかりあるわけじゃないので、

どこまでお伝えしていいのかっていうのはあるんですけど、やっぱり家庭学習の比率が高いなっていうのが個人的な気持ちとしてありますて、何かその辺りを共働き、家庭で見れる範囲というのがだんだん減っていったりする家庭もあると思うので、なんていふんですかね、家庭学習の支援とかっていうのを何か拡充してもらったりとか、負担を先生と家庭と、あと地域とかで分散するみたいな取組をしていただけたら、今後の共働きの家庭の役にも立つのかなと思って、今日意見させていただきました。

【市長】 はい、分かりました。私の方から言わせていただきます。他都市の事例、本当あのエビデンスなくお話してしまったらいけないので、他市に照会かけてみますね。どれぐらい宿題が出ていますかみたいな、照会かけてみようと思います、できるだけ。それとあんまり長くなつたらいかんのですが、夏休みとか長期の休みの子どもの過ごし方って大事です。例えばの取組なんんですけど、休日こどもカレッジっていうような、そういう取組もしています。大学の学生さんとかに参加してもらって、大学の施設を使って子どもたちの夏休みの時間を過ごしてもらうとか、そういう取組もさせていただいています。本当にそれで充分できますかって言ったら、そんなことはないと思いますんで、お声をいただいて、またいろんな取組に生かしていくらうと思います。他市の事例などについてはまた追って、1ヶ月をめどにお答えをさせていただきます。

【市長】 多数のご意見をいただきまして、ありがとうございました。今日で146回目のタウンミーティングだと申し上げましたけども、やっぱり皆さんの意見聞かせていただきたいんです。市長たちの間、行政でよく言うのが、市民の皆さんニーズって、多様化してます。複雑化してます。高度化してます。これ確かにことです。でも、やはり皆さんのお金をいただいて仕事をしている以上は、誤りなき政策を打っていきたいんですね。一方的にやるんじゃなくて、押し付けでやるんじゃなくて、やはり皆さんの声を聞かせていただいて、そういう現地現場の声から、立案や政策ができると思ってます。これからも皆さんの声を聞かせていただきたいと思います。改めて、移住者の方って、外からの視点もお持ちなので、外からの視点を生かしながら、松山市の施策を生かしていくことが大事だと思いました。今日とてもいい時間、勉強させていただいたと思ってます。必ず皆さんの声を施策に生かしていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

了